（別紙4）　　令和　1　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑　Aユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	令和元年11月12日	評価結果市町村受理日	令和2年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=321

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPOしまね介護ネット
所在地	島根県松江市白潟本町43番地
訪問調査日	令和元年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は出勤時「おはようございます。今日もよろしくお願いします。」と利用者、職員同士笑顔で挨拶をします。
笑顔で話しかけることで利用者や家族は面会時などに話しかけやすく、対等な関係を築いていきたいと思っています。また外出(外食)行事にも力を入れていて、そのため歩行運動や散歩は毎日欠かせません。
そして、出来る限り地域とのつながりを継続していけるよう、その方に合った支援をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は2ユニットそれぞれの利用者の状態を把握し、少しでも元気で安らぎと喜びのある毎日を送る事が出来る様に笑顔で声をかけ、日々寄り添い支援している。地域との関わりを大切にし、地域の会合、集会、研修会等に空きスペースを使用して貰ったり、中学生の職場体験、外国人の実習生の受け入れをする等事業所として出来る事を行っている。職員は資格取得や内・外部研修、学習会に参加して内容を共有し、認知症ケアの質の向上に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内やエレベーターなど、よく見えるところに掲示している。また基本理念は朝の申し送り時に出勤者で唱和して意識を高め、実践につなげている。新人職員には入社時のオリエンテーション時に話している。	基本理念を毎朝唱和している。利用者に敬意を持つて寄り添い、みんなで話し合いながら利用者主体のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の会合や研修会などに空きスペースを貸し出したり、天神祭りやどう行列などに利用者が見学、参加している。またボランティア活動などでも地域の方に参加してもらっている。	ボランティアによるサックス演奏や公民館のサークル活動でダンベル体操、歌、踊りなどをしている人の来苑がある。地域の活動に場所の提供をする等事業所として出来ることをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の一時避難所になっていて、過去の火災時には宿泊場所に利用してもらった。また会議室やレクルームという広い空間があるため、町内会などに開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H28年度からは年2回デイサービスとの合同会議を開催している。近隣の町内会をはじめとする委員の方や包括支援センター、家族に参加していただき、認知症高齢者への理解やサービス向上を図っているが、理解をいただくにはまだまだ努力が必要だと感じている。	事業所の状況を伝え情報交換や意見交換をしている。地域代表の人から助言を受けたり、家族から要望を聞き運営に反映させている。事業所のイベントにも参加して貰い協力関係を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方とは運営推進会議への出席が少なくなったため、以前よりは関わりが少なくなったように思うが、相談や困難事例等には協力してもらい、連携を図っている。	日頃から情報提供や困難事例の相談を行い、協力して取り組む関係を築き支援に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな場合においても拘束は行わないという姿勢で利用者に接している。また利用者の状態は細かくチェックし、申し送り等を徹底し、職員同士見守りを強化している。	身体拘束廃止委員会を開催し、職員が理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い人への対応やセンサーの見直し等、その都度話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修、ミーティングなどに参加し交流の機会を作り、暴言や無視など職員が気づいていない不適切な行為にもその都度対応するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ研修には出来る限り参加し、内部での研修にもつなげている。またそれを利用されている方もおられるため、実践で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、まず施設で生活された場合の高齢者のリスクなどを説明してからご理解をいただき契約に入っている。また解約時の説明もさせていただいている。改正時には文書にて都度説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは日ごろから声をかけやすい関係作りを築きながら、意見や思いを引き出しやすいようにしている。また利用者とも毎日の会話や動きの中からヒントをつかみ、利用者が表現しやすいよう努力している。	面会時や電話、運営推進会議等で意見、要望を聞き改善に繋げている。敬老会や水郷祭、どう行列等事業所のラウンジから利用者、家族、職員一緒に見学し交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員と話しやすい関係作りに努めている。出来る限りこちらから話しかけたり、休憩を一緒にしたりして、意見や提案が出しやすいよう努力している。	日頃から業務改善や利用者のケア等について意見、提案を聞く事に努め、出来る事から対応している。提案を受け今年度娯楽用具や電動ベット等を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは2ヶ月に1度の会議があり、意見交換したり、実績、勤務状況など伝えている。また要望なども伝えて、職場環境を改善してもらえるように日ごろから連絡は密にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、経験年数などを踏まえて受講できるようにしている。またユニット会議で研修として報告してもらい、全スタッフが受講できるようにして実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者とは、グループホーム部会に参加することで交流したり、研修で他グループホームで学ぶ機会があり、業務に反映させている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始までに直接本人と面談をして情報収集し、個人情報については本人、家族の了解を得たうえで職員同士共有し、本人の思い、要望に応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族のそれまでの過程や本人にとっての意味、情緒を含め積極的に受容と共感を示すよう努めている。本人の主体的取り組みを引き出す援助を行うよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じたサービスを見極め、本人、家族の状況、問題を把握し、援助者等が出来ること、出来ないことを伝えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体的取り組みを引き出す援助に努め、感情等十分に受け止める姿勢を持ち、なじみの関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等の参加、来苑時やお便りで利用者の様子を伝えることと、家族との外出、外泊等本人と家族の時を大切にし、共に本人を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便、面会や携帯電話での連絡、また外出も可能な限りしていただき、社会参加が保てるよう支援している。	家族の協力で好きなカラオケ大会に出場したり、知人や仕事関係の人の面会がある。海辺で暮らしていた人の思いを知り、実家までドライブをしたり居室に海の写真を貼るなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の出来ること、やりたいことをしていただき、行事等参加、活動していただくことで、良い対人関係が築けるようなケアに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後に親族からTELあり、めったに会わないので今どこにいるのか分からないとの内容だった。現在入居されている施設や家族に職員が連絡し、関係性の支援を行った。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか思いとはそぐわない形になることも多い。意向は把握できているように思う。	日頃の関わりの中での嬉しそうな顔やちょっとした言葉から思いを把握することに努め、対応出来ることは支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、詳しく把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフミーティング等でも情報交換し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族とは事前に話しをし、その後スタッフミーティングの場で意見交換し、プランを作成している。	利用者、家族、関係者の意見、要望を取り入れ、担当職員は利用者の状況を細やかに把握することに努め、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録に残しており、職員間で情報共有をしている。ミーティングでは、それらを元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフから出たアイデアで良いと思われるものがあれば、できるだけ取り入れるようにしている。一人ひとりに対応したサービスを試みている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員、市職員、中央包括支援センターの職員、町内会長、DS、GH入居者の家族等に参加していただき、支援に関する情報を交換し、協力関係を築くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診、往診していただいている。家族の要望や必要に応じ付き添い、同行し、情報等を伝えるようにしている。	以前と同じかかりつけ医を継続し、受診や往診の支援をしている。緊急時も必要な情報を提供し適切な医療が受けられる様に協力医療機関と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行っている。看護職員と連携し、体調等の変化など早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供を医療機関にしている。本人が安心して治療が出来るよう、家族、医療関係者と情報を共有し、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、重度化や終末期の対応については、かかりつけ医が終末期の対応をしていただける場合において、利用者家族、医師と十分に相談して支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合、終末期を何処で過ごすかも含めて意向を聞き話し合っている。医療的な対応がある場合は看取りの支援は困難だが、今年度は医師の指導、助言を受け2事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。苑内で応急手当講習を実施し、実践できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難経路の確認、消火器等の使用方法等の訓練を定期的に行っている。	ビルに「防災センター」があり各テナント合同で訓練している。消防署から施設独自の避難方法のアドバイスを受けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の思いや人格を尊重し、上から目線にならないような声掛け、接し方に努めている。入浴、排泄等プライベート空間におけるケアでは、利用者の身体にタオルをかけたり(入浴時)、トイレの扉を少し開け、プライバシーを傷つけないよう配慮している。	居室に入る時のノックや言葉使い等、失礼のない様に職員同志で注意しあっている。入浴時や排泄時もプライバシーに配慮する様に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が過ごしやすい環境作りや、利用者とコミュニケーションをとるようにして、信頼関係が築けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の生活リズムに沿っていただいているのが現実ではあるが、本人の希望に応じて散歩やパズル等をされたり、居室で過ごされたりとその人に合った過ごし方をしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時離床時ほか整容をしていただけるよう声掛け、介助したりと努めている。着替え等衣服はなるべく自分で選んでいただけるよう支援している。外出、行事の時には化粧をして出かけられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞き、メニューに取り入れたり、嫌いなものや食物アレルギーがメニューにある際は変更したりと対応している。食後の食器洗いやお膳拭きを手伝っていただいている。	利用者の嗜好を聞きアレルギーにも配慮し、外部の「町ゼミ調理講習会」に参加して学び利用者が食べやすい食事を提供している。利用者は食後の片づけなど出来ることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等のチェック表を活用し、1日の摂取量を把握し配慮している。なかなか水分の摂れない方は声掛けをしたり、紅茶やゼリーを作って提供したりと、水分を多く摂取していただけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所や自席で口腔ケアを実施している。介助を必要とする方は介助している。義歯と歯ブラシ等は週2回消毒、洗浄を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活リズムの中で体調、様子観察を行い、利用者に応じたトイレ誘導の声掛けをし、利用者の意思を尊重するよう支援している。	一人ひとりの様子を観察し、介護度の高い利用者も出来る範囲でトイレ誘導し、トイレで排泄出来る様に支援している。それまでの排泄用品を変えて家族に喜ばれた人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況を把握し、日常生活の中で運動、散歩、水分補給の気配りを忘れない。また起床時、朝食時に牛乳、ヨーグルト、番茶を口に入れてもらい、胃腸の働きを促進するよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人が穏やかに安心、安全に入浴が出来るように個別に早めの声掛けをしたり、対話をしながらの勧め方に努めている。	基本的な曜日や時間は設けているが、毎日声かけをして希望を聞きながら柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の服薬ファイルを作成し、薬の内容、用量、副作用が確認出来るようにしている。誤薬予防のため、必ずスタッフ2人で確認し合い、飲まれる時も必ずそばで見守り、確認に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬早見表で、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。服薬に関することは複数職員で相互確認をしている。処方の変更時は利用者の様子観察に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれに応じた楽しみ、役割をしていただいている。時々は全員参加での体操、作品づくりに取り組んでもらい、利用者同士の協力や交流が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出を全員参加を前提に行っている。遠距離ドライブから近所までを個々の状況に応じて計画をしている。誕生日外出も希望に沿うように計画を立てている。家族の協力を得て外出、外泊もしていただいている。天気の良い日は屋外への散歩に出かけている。	季節ごとの春の花見、秋の紅葉狩りや神社へお参り等、利用者の体調に合わせて数回に分けて出掛けている。遠出が困難な利用者は周辺の散歩や花壇の水やりで季節を感じて貰っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には使っていただいている。 一緒に買い物に行く等の支援もたまにではあるができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用される方がおられ、助言を求められると支援している。 家族に渡してほしいと書かれたものを届ける等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不満があればすぐに対応し、居心地の良い空間づくりを目指している。 季節の作品づくり等をしており、それを飾っている。	両ユニットが行き来しやすいようになっている。季節の花を生け歌集、利用者の作品、テレビ、炬燵を置き、家庭的な雰囲気で過ごせる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ設置やあえて死角あるスペースをつくり、その時の気分に応じた空間で過ごしていただけるよう工夫している。景色の良いところにソファを設置し、眺めながら利用者同士が会話される様子もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後も使っていた湯のみや居心地の良くなる家具や写真等を持ってこられるケースもあり、本人の安心に一役買っている。	今迄愛用していた化粧道具、好きな有名人のポスターやぬいぐるみ等を持ち込み、壁には皆で製作した作品を掲示し落ち着いて過ごす事が出来る様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力をミーティングで分析し、必要に応じて柵や家具の配置、ベッドの移動等を行い、自力での生活に都合のよいように工夫している。		